



— 口腔機能低下症の診療を実施している医院の事例を紹介します —

「口腔機能低下症」は、う蝕や歯の喪失など従来の器質的な障害とは異なり、いくつかの口腔機能の低下による複合要因によって現れる病態。7つの下位症状のうち3項目以上該当する場合に「口腔機能低下症」と診断されます。詳細は日本歯科医学会発信の「口腔機能低下症に関する基本的な考え方」をご参照ください。

▶健康維持につなげる口腔管理と全身管理、そして栄養指導 いつまでもおいしく食べるために

当院では以前より歯科治療・摂食嚥下障害の診療を通じておいしく食べるための支援を行っており、口腔機能低下症が保険収載されたタイミングで診療を開始しました。

口腔機能低下症の検査に加えて、歩行速度・握力測定・体成分分析・骨密度の測定も行い、管理栄養士による栄養指導も実施しています。患者さんの全身の管理を通じて、フレイルやサルコペニアを予防し、健康寿命の延伸を目指しています。

Point! 10食品群の摂取頻度を
確認。食習慣を参考に
栄養指導を行う。

院内システム

【対象患者】

50歳以上
問診時に聖隷式嚥下質問紙を配付

【初回検査時】

検査結果の説明、機能訓練、栄養指導

【機能訓練】

日本老年歯科医学会のリーフレットを活用

【栄養指導】

口腔状況、各種疾患、食品摂取頻度スコア(FFS)、体成分測定の結果を基に、調理者など生活状況を考慮し、不足栄養素を補うために必要な食材・実践しやすい調理方法の助言を実施

【管理】

検査後に6か月後の検査を予約し定期的に検査を実施
メンテナンス時に機能訓練の取り組み状況確認と訓練の再指導



★食事バランスチェックシート★(DVS 改定)

名前 日付 年 月 日

10 種の食品群について、当てはまるものに○を付けましょう!

食品群	ほとんど毎日食べる (2点)	2日に1回食べる (1点)	週1-2回食べる (1点)	ほとんど食べない (0点)
魚介類				
肉類				
卵				
大豆製品				
牛乳・乳製品				
緑黄色野菜				
海藻類・きのこ類				
いも類				
果物				
油を使った料理				
合計	点	点	点	点
小計	点	点	点	点
合計	点/30点			

※30点満点(魚介類・肉類・大豆製品・卵・牛乳・乳製品・緑黄色野菜・海藻類・きのこ類・いも類・果物・油を使った料理) 24-27点(魚介類・肉類・大豆製品・卵・牛乳・乳製品・緑黄色野菜・海藻類・きのこ類・いも類・果物・油を使った料理) 18-23点(魚介類・肉類・大豆製品・卵・牛乳・乳製品・緑黄色野菜・海藻類・きのこ類・いも類・果物・油を使った料理) 10-17点(魚介類・肉類・大豆製品・卵・牛乳・乳製品・緑黄色野菜・海藻類・きのこ類・いも類・果物・油を使った料理)

食事バランス
チェックシート

体成分測定
の様子



症例



患者: 79歳 男性

主 訴: 滑舌が気になる

既往歴: 糖尿病

生活状況: 奥さんが入院し
娘さんと二人暮らし。
家事は患者さんが担っている。

Point! 患者さんに合わせた助言
を行うため、生活状況も
ヒアリング。

Point! 手軽にタンパク質
を増やす方法として
缶詰も有効。

〈検査当日〉3項目該当で口腔機能低下症と診断。

体成分分析の結果、下肢の筋肉の低下がみられ、食品摂取頻度スコア(FFS)が低かった。そのため、肉・魚・大豆製品・卵などたんぱく質を多く含む食材を、自分の手のひらくらいの量を目安に毎食摂ることを指導。

〈8か月後〉食事を見直したことでFFS改善。また、バタカラ体操などの訓練の効果か嚥下機能改善。

〈23か月後〉奥さんの退院により介護(要介護5)が必要となり、生活が一変。初回より全体的に各種検査値は改善傾向であったが、FFSを含め悪化が見られる項目があった。機能訓練に加え、介護食の調理負担軽減のため、ミキサーなど調理器具の提案や、マヨネーズやはんぺんを用いて簡単なカロリーアップの方法を助言。

Point! 栄養補助食品
なども紹介して
います。

	初回	8か月後	17か月後	23か月後
口腔衛生状態(%)	77.8	66.7	27.8	38.9
口腔乾燥	28.7	24.6	21.8	21.8
咬合力(残存歯数、本)	23	23	23	23
舌口唇運動機能(回/秒)	/pa/ 5.6	5.4	5.8	5.6
	/ta/ 5.8	6.2	6.0	6.0
	/ka/ 5.0	4.6	5.2	5.4
舌圧(kPa)	30.6	30.8	31.7	29.5
咀嚼機能(咀嚼能力検査、mg/dL)	136	196	192	234
嚥下機能(聖隷式嚥下質問紙、Aの項目数)	1	0	1	0
握力(kg)	32.4	34.5	31.4	31.8
BMI(kg/m ²)	22.3	22.0	22.3	21.7
骨密度YAM値(%)	74.2	76.9	70.0	72.7
食品摂取頻度スコア(FFS)(点)	20	23	24	13



当医院では口だけでなく全身管理にも重点をおいており、口腔機能精密検査の他に体成分測定やフレイル検査、栄養相談も行っています。特に高齢者は上記症例のように、ライフイベントにより生活が一変することも少なくありません。口腔機能低下症検査を半年に一度行うことで、患者さんの経過確認にもつながります。医院理念である『「いつまでも美味しく食べる」を生活支援する歯科医院を目指す』ために、歯科と連携し、食べられる口を作り、より健康でいられるための食事指導をしています。

(管理栄養士 井筒 紗彩さん)

※2023年2月現在の情報です。

